

## 第54回シグマ委員会熱化 グループ会合議事録

日 時 昭和42年12月22日(金)午後1時～5時  
場 所 原研東京本部第2会議室  
出席者 関谷, 角谷, 大竹, 飯島, 中原 以上5名

### 配布資料

1. 第53回シグマ委員会熱化グループ会合議事録
2. シグマ委員会の仕事と委員所属個所の仕事との間の関係について(案)
3. JAERI-1146 中原
4. 氷の振動数分布 中原
5. ベリリウムの振動数分布と散乱断面積(その2) 中原

議 長 飯島俊吾

### 議 事

1. 前回議事録確認  
訂正事項なし
2. 本年予算の使用状況

飯島氏よりASTOMの予算はもう残っていないとのことであるとの発言があった。

大竹氏よりGASKET. FRANGEの整備費はコード委員会の方から70万円出たようである, また, CDCの使用契約が済んだとの連絡があったので仕事を始めているとの発言があった。

飯島氏より11月29日現在の予算使用状況は次の通りであるとの報告があった。総予算は185万円, 使用総額105万円, 残額は80万円である。ASTOMの予算は残っていない。

飯島氏より大要次のような発言があった。来年はじめワシントンで会議があり, そのための旅費を捻出するのに熱化グループの方からも予算をけずる余裕

があるかどうかとの問い合わせが五十嵐氏からあったので、正式に申し入れてくれれば、熱化グループで計った上何んとかするとの返事をしておいたが、その後話はない。

角谷氏より MUSE の予算も全部使ってしまったって残っていない、あと 10 万円あれば残っている仕事を完了することができるとの発言があった。

evaluation について IBM との契約手続きはしてあるのだが、大竹氏のところへ計算依頼書(副)が戻ってきていないとの発言が大竹氏よりあり、大竹氏の方で確認することになった。

予算の不足分については更に次の額だけ追加することになった。

MUSE	10万円
ASTOM	20万円
evaluation	30万円

evaluation については、先に書類を出した 20 万円の分の契約が IBM と未だ結ばれていない場合は、追加分と合わせて原産計算機室(CDC)と一括して契約することになった。

追加手続きに必要なので、今までに終了していること及び未だこれからやらねばならないことの概要を複写できる紙に書いてなるべく早い時期に提出するようにとの発言が中原氏よりあった。

evaluation についての契約を IBM から CDC に変更することについては、欠席されている委員の諒解をとりますとの発言が飯島氏よりあった。

資料 2 の件につき飯島氏より簡単な説明があった。旅費についてはワーキング・グループの会合ならば出るが、簡単な打ち合わせには出ないとのことであった。

### 3. 来年度人員計画

来年度の人員計画についての討論が行なわれた。後藤氏の渡米と山越氏の帰国はほぼ確実、中原氏の渡米は未確定。中原氏より来年 4 月からの委員に綾尾氏(原研)を入れたいとの発言があり、諒承された。関谷氏より錦織氏(阪大)を入れたいとの発言があったが、大学院の学生は委員としては認められないこと及び関西の人の場合は旅費の面で難しい点があるとの発言が幹事よりあり、坂岸氏(阪大、助手)の代理ということで錦織氏を推薦することになった。代

理の場合は旅費は2回に一度の割でしか出ないと思うとの発言が飯島氏よりあった。また他に委員に推薦したい人があったら申し出るようにとの発言が飯島氏よりあった。

#### 4. 作業報告

調査シートが角谷氏及び関谷氏より提出された。

##### (1) GASKET-FRANGE

大竹氏より大要次のような報告があった。コンパイルは終了した。GASKETの方はサンプル・データで計算してみて通っている。FRANGEの方は $\beta$ は80、 $\alpha$ は2のメッシュで通してみたが、全部アウト・プットは零になってしまっている。GASKETの $S(\alpha, \beta)$ の値は、GAの値と3桁目ですれているが、CDCの話ではIBMよりCDCの方が精度が良いとのことである。

##### (2) MUSE

角谷氏より予算がなくなったので前回の報告の後の計算はやっていないとの報告があった。

##### (3) ASTOM

計算式のチェックをやっているところであり、プログラミングはまだ始めていないとの報告が関谷氏よりあった。

##### (4) ベリリウム(資料5)

中原氏よりベリリウムの全散乱断面積のevaluationについての報告があった。

##### (5) 氷の振動数分布(資料3, 4)

中原氏より氷の振動数分布をルート・サンプリング法で求めた計算についての報告があった。

##### (6) $H_2O(20^\circ C)$

飯島氏より大要次のような報告があった。Haywood spectrumを用いてUNCLEで $\bar{\mu}$ を計算してみた。エネルギー積分はメッシュの取り方が非常にきくことがわかった。精度を上げようとするとう計算時間がかゝり過ぎるためUNCLEで高いエネルギーまでevaluateするのは得策ではなく、GASKET-FRANGEを使った方が良いかも知れない。

次回予定

日 時 昭和43年1月26日(金)午後1時～5時  
場 所 原研東海研  
議 長 関谷 全